

猪俣弥八資料展オープニングセレモニー挨拶

2019年11月9日

雨岳民権の会 岩崎 稔

今回、このような形で、金目ミュージアム主催の弥八展が開催されることを、まずもって、喜びたいと思います。

猪俣さんの蔵のなかで、眠っていた弥八が、展示の形で蘇りました。

その知られざる明治の青年の声に、どうか耳を傾けて欲しいと思います。

この金目の地に、このような青年がいたということ、どうか記憶に留めておいて頂きたいと思えます。

彼は、35歳の若さで、まるで、開花しかかった花が筆りとられるように、暴虐者の手にかかって殺されました。

彼の友たちは、彼の死を悼み、追悼集『落葉』を編みました。彼の死の悲しみは、そのまま彼の人格性の大きさを示していると思えます。

是非、弥八なる青年に、明治の躍動を感じて頂ければと、思います。

そんな感慨を以て、私の挨拶と致します。

